

令和4年8月9日開催

文教経済常任委員会資料【所管事務調査】

直江津・小木航路維持と観光を中心とした広域連携について 1 ～ 4

直江津・小木航路維持と観光を中心とした広域連携について

1 佐渡汽船株の経営状況

佐渡汽船株は令和4年3月31日から、株みちのりホールディングスのグループ企業となり、新たな経営体制の下、社員の意識改革や多くの旅行プランの造成、購買システム・電子決裁システムの導入など、スピード感を持った経営改革に取り組んでいる。

佐渡汽船株の令和4年1月～7月の輸送実績（速報値）は、全航路の輸送人員が約50万人、車両航送台数（乗用車換算）が約10万台となり、前年の同時期と比べ輸送人員は131.1%、車両航送台数（乗用車換算）は111.5%となった。小木直江津航路においては、輸送人員が約1.9万人となり、前年の同時期と比べ230.0%となった。要因として、新型コロナウイルス感染者数の減少に伴う観光需要の復調や、観光需要を喚起する県民割の近隣県在住者への適用、「佐渡島の金山」が世界文化遺産推薦候補に選定されたことなどが考えられる。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がなかった令和元年の同時期と比べ、全航路の輸送人員は63.8%、車両航送台数（乗用車換算）は88.4%であり、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きく、佐渡汽船株からは令和4年12月期決算における黒字化は難しいと聞いている。

【表1】輸送量の状況（令和4年1月～7月）

| | 全航路 | | | 小木直江津航路 | | |
|--------|----------|--------|-------|---------|--------|-------|
| | 人員(台数) | 前年同期比 | R元同期比 | 人員(台数) | 前年同期比 | R元同期比 |
| 輸送人員 | 499,656人 | 131.1% | 63.8% | 18,592人 | 230.0% | 30.3% |
| うち個人 | 451,593人 | 127.9% | 65.2% | 10,136人 | 182.3% | 25.2% |
| うち団体 | 48,063人 | 172.1% | 52.5% | 8,456人 | 335.0% | 39.9% |
| 車両航送台数 | 104,428台 | 111.5% | 88.4% | — | — | 皆減 |

※小木直江津航路におけるR元同期比は、高速カーフェリー「あかね」による運航との比較

※車両航送台数は乗用車換算により算出

2 カーフェリー「えひめ」導入の検討

佐渡汽船株が「あかね」の売却方針を決定して以降、本市及び佐渡市は、小木直江津航路へのカーフェリーの早期導入を要望してきており、これを受け、同社では、新経営体制の下カーフェリーの導入を検討してきた。検討に当たっては、今後の輸送需要予測や導入後の収支見込み、小木直江津航路の定期運航終了後における冬期間の新潟両津航路での予備船としての活用を踏まえ、運航に適した船舶の仕様を判断し、候補船の調査を進めてきた。

本年6月30日開催の佐渡航路確保維持改善協議会において、佐渡汽船株から、宇和島運輸株が所有する「えひめ」の購入を検討しているとの報告があった。その後、7月29日開催の同協議会では、佐渡汽船株から、自己資金で「えひめ」を購入し、令和5年春から小木直江津航路に就航する方針が正式に示され、協議会において、国と事前協議の手続を進めることについて了解され、同日、国へ「小木直江津航路確保維持計画船舶変更に係る事前協議書」が提出された。

また、同日、佐渡汽船㈱から当市、新潟県及び佐渡市に対し、小木直江津航路へのカーフェリー導入に伴う支援の要請があった。

今後、国による船舶変更に係る事前協議の承認を得た後、佐渡汽船㈱は、宇和島運輸㈱と交渉のうえ、「えひめ」の購入契約を締結し、来年春の就航に向け準備を進めることとしている。

【表2】ジェットフォイル「ぎんが」とカーフェリー「えひめ」の比較

・船舶

| 船舶名称 | ぎんが | えひめ |
|------|---------------|--|
| 所有者 | 佐渡汽船株式会社 | 宇和島運輸株式会社（愛媛県八幡浜市） |
| 竣工年 | 1979年（昭和54年） | 2001年（平成13年） |
| 全長 | 30.8メートル | 116.5メートル |
| 定員 | 250名 | 610名 |
| 車両積載 | — | 1階：8トントラック 35台 又は乗用車 125台 2階：乗用車 25台 |
| 航行速度 | 43ノット（時速80km） | 20.2ノット（時速37km） |

・運航期間（案）

| 令和4年 | 令和5年 |
|----------------------|--------------------|
| 4月29日（金・祝）～10月31日（月） | 3月25日（土）～10月31日（火） |

・ダイヤ（案）

| 令和4年 | | 令和5年 | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 直江津発 → 小木着 | 小木発 → 直江津着 | 直江津発 → 小木着 | 小木発 → 直江津着 |
| 8:55 → 10:10 | 11:20 → 12:35 | 7:00 → 9:40 | 10:20 → 13:00 |
| 13:50 → 15:05 | 15:45 → 17:00 | 13:55 → 16:35 | 17:15 → 19:55 |

| | | |
|------|--------|--------|
| 所要時間 | 1時間15分 | 2時間40分 |
| 滞在時間 | 5時間35分 | 7時間35分 |

・運賃（案）

| ジェットフォイル | | カーフェリー | | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 等級 | — | 2等 | 1等 | 特等 |
| 運賃 | 2,370円 | 2,370円 | 4,220円 | 7,170円 |
| 座席指定料 | 900円 | — | — | — |
| 特別急行料金 | 3,190円 | — | — | — |
| 合計 | 6,460円 | 2,370円 | 4,220円 | 7,170円 |

※別途、燃料油価格変動調整金が加算

【表 3】スケジュール

| | |
|---------------------|--|
| 令和 4 年 7 月 29 日 | 国へ「小木直江津航路確保維持計画船舶変更に係る事前協議書」を提出 |
| 令和 4 年 8 月中～下旬(予定) | 国との事前協議が完了 |
| 事前協議完了後 | 「えひめ」の購入に向けた交渉開始 「生活交通確保維持改善計画認定申請書」の協議・国へ提出 「えひめ」の購入契約の締結、引き渡し、船舶改修 |
| 令和 4 年 12 月(予定) | 船舶改修等の完了、検査等 |
| 令和 5 年 1 月～2 月(予定) | 試験運航 |
| 令和 5 年 3 月 25 日(予定) | 小木直江津航路に「えひめ」就航 |

3 カーフェリー導入の効果

ア 観光の活性化

- ・佐渡島内における観光バス及びレンタカー不足の解消が図られるため、佐渡への観光客の増加が見込まれるほか、上越～佐渡～新潟の回遊性が高まることから、当市のみならず新潟県全体として観光の活性化につながる。
- ・佐渡での滞在時間が長くなることから、当市を拠点とした佐渡日帰りプランの造成が期待されるほか、車両を伴う航路利用者の増加により、当市での観光や飲食、物販などの消費拡大も期待される。

イ 物流の安定

- ・小木～直江津、新潟～両津の 2 航路を確保できるため、物流の安定につながる。
- ・冬期間は新潟両津航路で運航できるため、カーフェリーのドック入りに伴う同航路の 1 隻体制が解消され、物流の安定につながる。

ウ 航路の安定

- ・カーフェリーは天候の影響が小さく欠航しにくいいため、小木直江津航路の安定的な運航につながる。
- ・予備船となるジェットfoilを活用し、船舶の故障等によるリスクを低減できるとともに、臨時便の運航などにより利便性やサービスの向上につながる。

エ 経営の改善

- ・中古船の導入により初期投資が抑えられるため、輸送量の増加と航路収支の改善を同時に進めることができる。

4 支援のあり方

本年 7 月 29 日開催の佐渡航路確保維持改善協議会に先立ち、佐渡汽船㈱から当市、新潟県及び佐渡市に対し、小木直江津航路へのカーフェリー導入に伴う支援の要請があった。

佐渡汽船㈱では、「えひめ」の導入に伴う車両航送・貨物輸送の再開及び輸送人員の増加による増収増益を要因として、小木直江津航路の収支見込みについては、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録による影響を加味せずに、就航後 10 年間で数億円が改善するとしている。

しかし、同航路の収支は赤字が継続すると見込んでおり、とりわけ、カーフェリー購入等に伴う減価償却費を含む就航後 3 年間の航路収支が大幅な赤字となることから、航路の維持確保のためには自治体からの支援が必要と考えている。

当市としては、カーフェリー導入により小木直江津航路の収支が改善されることは、将来にわたって航路が安定的に維持されることにつながり、また、北陸新幹線の敦賀延伸や「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を見据えた中では、佐渡へ渡る西の玄関口である当市への誘客促進を図る上で、適当な時期での導入と考えている。

当市及び当市議会において、カーフェリーの早期導入を要望してきた経緯を踏まえ、今後、新潟県及び佐渡市と支援額や負担割合など具体的な支援内容について協議していくこととしたい。